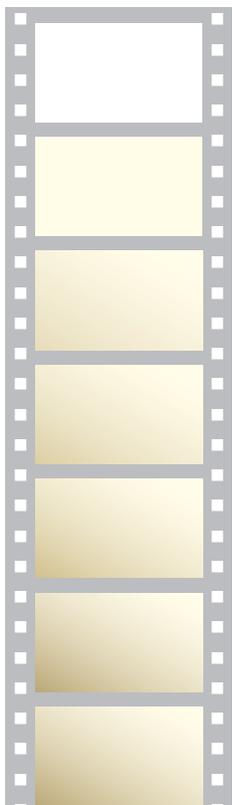
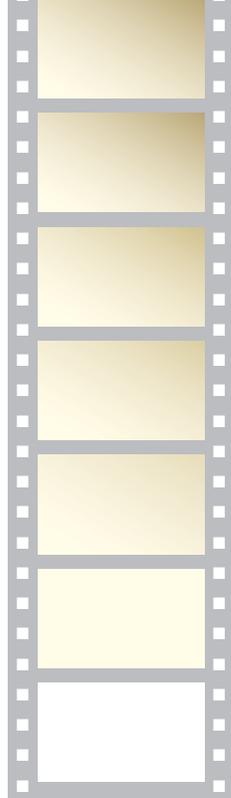


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第三十二回 「テレコ大作戦」②

連続テレビ映画「スパイ大作戦」は、番組の好評を受け、89年から91年までに「新スパイ大作戦」として35本製作されました。その時には指令がテープレコーダーからDVDに変化しているエピソードもありました。その後、トム・クルーズが96年劇場用映画として製作し、今年(11年)の12月にはパート4(ミッション・インポッシブル/ゴースト・プロトコル)が公開されます。

「スパイ大作戦」のテープレコーダーは、毎回、自動消滅しますが、ぼくのテープレコーダーは故障するまで大活躍しました。

「自分の声はどんな声？」と誰もが初めに試してガツカリしますが、実際、ぼくもやってみました。付属品のマイクで録音し内蔵スピーカーで自分の声を再生しました。でも、何か自分の普段の声ではありませんでした。その声は、天井にぶつかってはね返った声や、壁にぶつかってはね返った声などが録音され耳に入っているか

からです。

本当の自分の声を聴きたいなら、音のはね返りのないスタジオで声を出して録音した声になるでしょう。

テープレコーダーでそんな遊びをしながらぼくは毎週、ラジオで放送されるポピュラーミュージックの番組を録音し、何度も聴いて楽しんでいました。

途中でA MからF Mへ移行しましたが、石田豊アナウンサー（NHK）の「リクエストコーナー」というD J番組は徹頭徹尾、聴取者ひとりひとりを大事にし、かけるレコード一曲一曲を大切にしていました。

例えば、生放送でラストの曲が全部、放送時間内に入らないことがわかった時、ラスト曲をカットして後^{アト}テーマ曲までアドリブでつないでいく。カットしたラスト曲は翌週の一曲目に全曲放送する。また、かける曲名と演奏者の名前は、曲の前と後に必ず入れる。こういうD Jの鉄則を守っていました。

ぼくにはD Jの先生（直接、指導を受けた人）はいませんが、テープレコーダー

で録音したDJのいい所を参考にしてDJを担当してきました。石田豊さん、関光夫さんたちの30年以上前に番組を録音したテープは、ぼくの先生であり大事な宝物です。

〈時報音〉ピピピピー

CI (音声我突然大きな音量で入ること)
(カットイン)

テーマスタート

ビリーヴオン楽団「真珠貝の歌」

〈前枠〉

あの歌、この曲、

新しいリズムに、懐かしい調べの数々。^{カスカス}

あなたのお好きな曲を集めてご一緒に
楽しむ1時間。

リクエストコーナー第116回です。

FO (音声がいだいに小さくなって消えること)
(フェードアウト)

(続)

伸

平成23年11月